

佳作

たいせつなおともだち

福岡県 福岡教育大学附属福岡小学校一年 原口 直旺美

「なおみちゃん、これ、おてがみ。」

といって、てがみをもらいました。わたしは、とってもたのしみにしていたにゆうがくしきにびょうきで、できませんでした。三日ご、はじめて学校にいったそのときに、わたしのまえにすわっていた、きおちゃんから、てがみをもらいました。こっそりよむと、

「なおみちゃんへ。げんきになった？なおみちゃん

がくるのをまってたよ。いっぱいあそぼうね。」

とかいてありました。わたしのことを、しんぱいしてくれて、とてもうれしくて、

「きおちゃん、ありがとう。」

といいました。わたしは、学校のようにすがわからなかったので、きおちゃんがおしえてくれました。トイレのばしょや、どうぐいれのばしょなどやさしく

おしえてくれました。学校のことをすこしずつわかるようになったころ、じゅぎょうちゆうに、とつぜん、わたしの目からなみだがポロポロおちてきました。きおちゃんが、

「なおみちゃん、どうしたの。」

としんぱいそうにきいてきました。

「ママにあいたくなかった。」

といったら、きおちゃんが、

「わたしがいるから、だいじょうぶよ。」

といってくれました。やすみじかんも、わたしのそばにいてくれて、いっしょにほんをよんだり、てつぼうであそんだりしました。でも、わたしは、ママにあいたいきもちでいっぱいでした。ずっと、じゅぎょうちゆうにないてばかりいたわたしに、きおちゃんが、おまもりをつくってくれました。

「なおみちゃんが、にこにこになりますように……きお。」

とかいたかみを、ちいさなふくろにいれてくれました。わたしは、このおまもりをランドセルのなかにいれて、たいせつにしまいました。きおちゃんのおまもりのおかげで、げんきになりました。わたしがなかに、にこにこおになったので、きおちゃん

が、とってもよろこんでくれました。きおちゃんが、
「なおみちゃんへ。これからいっしょにがんばろうね。」

とかいた、てがみをくれました。わたしのたいせつな、たいせつな、ともだちです。